

好きなもので季節を飾る、日常を飾る!

www.elle.co.jp/decor/

ELLE DECOR

JAPAN
no.173

エル・デコ
DECEMBER

2021

the world's
leading
design &
lifestyle
magazine



Magazine Cloud
電子版でも読めます

愛着のあるもので彩る
フォルナセッティの自宅

いとしのペットと暮らす家

整うバスルーム計画

街のデザインが面白い

ミラノで見つけた、
新作ダイジェスト!

2冊の黒田泰蔵

Living
with
Decorations

好きなものを飾る

PREFAB PERFECT

個性豊かな動物たちが集う、南アフリカの住まい

2009年に家主夫妻が越してきたのは、南アフリカ中部のブルームフォンテン。今なお進化を続ける、自らの手で建てた45m²のプレハブ住宅には、同居する2匹のワイヤーフォックステリアのほかにロバやホロホロ鳥も顔を出す。

Photos WARREN HEATH (Living Inside/Bureaux) Original Text ROBYN ALEXANDER Production SVEN ALBERDING Text CHISATO YAMASHITA

増築を経てより快適で、美しくなったプレハブ住宅

2009年に建て、2020年に増築工事を行った自宅のテラスで読書やフリックボールを楽しむ。ドッグのガラス扉を開ければ、ひさしを備えたテラスがアウトドアリビングとして機能する。2匹のワイヤーフォックステリアは喜びの表情を巧みに引き出す。ワイヤーフォックステリアの手に、プレハブ住宅のFinizio Homeが誇るフリックボール。



**宝物を詰め込んだ本棚は
バーテーションとしても活躍**

室内で存在感を放つ本棚には、本だけでなく植物や、夫妻が収集してきたアート作品やオブジェなどもディスプレイされている。愛犬も心地よさげに座るソファは、中古で手に入れたものを補修して使用。観葉植物が置かれている木製のスタンドは、フィリップが祖母から受け継いだもの。ソファ前のサイドテーブルは、ケープタウンの家具ブランドSaks Corner。

**デスク周りは壁面の色を変え
集中力を高める工夫を**

右 現在、博士論文を執筆中のリサが使用するデスクを、ベッドルーム内に設置した。白く明るい部屋の中で、この部分だけを黒にペイントしてゾーニング。デスクは彼女がオランダ人の祖母から受け継いだヴィンテージ。背もたれの部分を壁面の色に合わせたモダンなチェアは、ケープタウンを拠点にする家具ブランドLimのもの。壁にかけられている写真はリサが撮影した作品を額装したもの。

**外ではしゃぎ回る犬たちも
キッチンでは行儀よく**

左 キッチンエリアで行儀よく座る、ワイヤーフォックステリアのラスティとルナ。キッチンと洗濯機は、白い壁面と合わせた色で統一してすっきりとまとめた。隣の壁面を黒くすることでメリハリがつき、コンパクトな空間により奥行きを与えている。床に敷かれているのは、修道院が経営するリサイクルショップで運良く見つけたアフガニスタン産のラグ。



**選りすぐりのヴィンテージを
集めたリビングエリア**

テラスに直結する明るいリビングエリアに置かれている2脚の革張りチェアは、リサが祖母から受け継いだミッドセンチュリーのヴィンテージ。ジュエリーのような2つのペンダントランプは、ともに南アフリカ、パールのガラス工房レッドホットグラスのアイテム。ウォールシェルフに立てかけられた版画は、Free State Art CollectiveのMandielmmelmanによる作品。



庭で遊ぶ動物たちと
気楽に触れ合えるテラス

2020年に行った増築工事の際に、トラス構造を採用してひさしとその下のテラスを拡大。フィリップがデザインしたダイニングセットの上に取り付けられたシェンテリアは、オーダーメイドの家具や照明を手がけるMud Studioで購入。テラスに家主夫妻や愛犬たちが出てくると、庭にいるロバやホロホロ鳥などほかの“住人”たちも次々と集まってくる。



5年間倉庫に眠っていた
ヴィンテージのバスタブを設置

ベッドルームの一角に作ったバススペース。フィリップが「いつか使いたかった」と話すバスタブは、友人宅のリノベーション工事を手伝った際に譲り受けたもの。ほどよく錆びついた表面はそのままに、内部を作り替えた。下に敷いたUnion Tilesによる、花こう岩を使ったタイルが重量のあるバスタブを支えている。窓から見えるのは、庭に育つカーリーの木。



北窓からの光が心地よい
新しいベッドルーム

増築したスペースに入るベッドルーム。窓を北側の高い位置に開けたので、南アフリカの強い太陽光がほどよく緩和された状態で差し込む。ベッドリネンは、Weylandsで購入。シーリングライトは、地域のハンドメイド製品を扱うKaroo Padstalで見つけたヴィンテージ。ブラケットランプは、フィリップによるデザイン。壁に飾られたアート作品はRobynne Gouws。

“気がつくと、ロバのラズベリーが玄関からこちらを覗いていることもあるの”

「ここ10年でプレハブ住宅に関する認識はかなり変わってきたと思う」とフィリップは言う。手軽に建てられ、建築費用も抑えられるプレハブ住宅は、フレキシブルな暮らし方が求められる昨今の状況において、これまで以上に注目されている。こうした住宅に対する、長持ちしない、そして、デザイン性に乏しい、という考えには修正が必要かもしれない。少なくともフィリップとリサは、10年以上この美しいプレハブ住宅で愛する動物たちに囲まれながら快適に、そして幸せに暮らしているのだから。

ラズベリーとドットティは庭で過ごす、ラステイとルナは家にいることも多い。「朝起きると、2匹は私たちのベッドで仰向けになって一緒に寝ているのよ」とリサは動物たちを愛おしげに眺めながら言う。「ラズベリーが玄関に顔を出していることもあるわね。周囲の自然やそこに住む動物たちとの距離が驚くほど近いのも、プレハブ住まいならではの楽しみかもしれない。

北側の高い位置に設けた窓がほどよい光で室内を満たす。反対側に取り付けたスライド式のガラス扉からは直接テラスに出ることができる。カーリーとも呼ばれる木、ルス・ランケアが影を落とすテラスには個性豊かな、住人たちが集まってくる。フィリップとリサと一緒に暮らす、ワイヤフォックステリアのラステイとルナ、ロバのラズベリー、それからホロホロ鳥のドットティだ。

「住みたい家がどうしても見つからなかったから、自分で建てるしかないと思ったんだ」
プレハブ住宅メーカーの経営で培ったノウハウを駆使
2009年に完成させた住まいは45㎡。「すごい狭さだよ。でも、僕たちはここでとても幸せだったんだ」。自宅をプロトタイプに、フィリップは会社を立ち上げた。プレハブ住宅メーカー、Ezio Homeの始まりだ。ビジネスは拡大が続けたが、彼らは10年もの間同じ場所に暮らし続けた。しかし19年になり少し状況が変わる。大学院で修士論文を執筆することになったリサが、ひとりで集中できるスペースを必要としたのだ。

フィリップはバスルームとテラス、ベッドを備えた23㎡のスペースを増築する計画を立てた。工事は20年初めに完了した。「ロックダウン直前に完成したんだ。ラッキーだったよ」とフィリップ。09年の建築当初と似た建材を用いたため、増築部分に違和感はない。これまで培ってきたプレハブ住宅製作のノウハウを駆使して、自然光の取り入れ方も工夫した。

「住みたい家がどうしても見つからなかったから、自分で建てるしかないと思ったんだ」
プレハブ住宅メーカーの経営で培ったノウハウを駆使
2009年に完成させた住まいは45㎡。「すごい狭さだよ。でも、僕たちはここでとても幸せだったんだ」。自宅をプロトタイプに、フィリップは会社を立ち上げた。プレハブ住宅メーカー、Ezio Homeの始まりだ。ビジネスは拡大が続けたが、彼らは10年もの間同じ場所に暮らし続けた。しかし19年になり少し状況が変わる。大学院で修士論文を執筆することになったリサが、ひとりで集中できるスペースを必要としたのだ。